

# 京都教区時報

第119号

田中司教認可

毎月1日発行

発行 京都司教区 発行責任者 村上透磨  
編集 京都カトリック教理センター 住所 京都市左京区仁王門通新高倉東人 Tel 761-9095

## 四旬節司教教書

### メリノール75周年と 京都教区50周年によせて

L.ウォルケン



L.ウォルケン師

1911年6月29日  
2人のアメリカ人神父  
J・A・ウォルシュ師  
とT・F・ブライス師  
が、ピオ10世教皇から  
アメリカに外国宣教会  
設立の許可を得ようと  
していました。それは  
今から75年前のこと  
です。

正式に認められたもの、具体的な形は出来上っていませんでした。2人はアメリカのカトリック信者にこの会を支援してもらうため今まで以上に働きました。その頃アメリカはまだ布教国の部類から抜け出したばかりで、彼等の外国宣教会活動は早すぎると考えていたのです。

メリノール会は最初から東洋を仕事の間と考えていました。日本での活動は1930年代に入ってからです。

現在の京都教区は当時大阪教区の一部でした。その後1937年に現在の京都教区がメリノール会の管轄に入ることになり、パトリック・J・



J.バーン元教区長

バーン師が教区長となりました。当時彼と一緒に働いた神父の中に、皆さんもよくご存知の古屋司教様がいらっしゃいました。

しかし日本は第二次世界大戦へと入っていき、外国宣教師たちは国外追放され、宣教会活動ができなくなっていました。

終戦後、アメリカ政府は日本語のできる宣教師のみ入国を許可しました。そのため、また日本での宣教会活動が開始されました。メリノール会員たちも日本語を勉強し、多くの教会・修院を建て最盛期には100人ほどの神父やブラザーが日本で働いていました。そのうちの者が京都教区にいました。

こうした中で教区司祭の増加とともに会の方針に従い、メリノール会員たちは教区司祭に後を引き継いでいきました。メリノール会と京都教区の正式の取り決めは3年ごとにされますが、この短期の取り決めがお互いの責任の再確認の機会を与えてくれます。現在、京都教区には22人のメリノール司祭とブラザーがいます。そのほとんどが小教区の仕事をしています。しかし召命が減少していることから、この人数は将来増える事はなさそうです。現在、教区司祭とともにメリノール会員たちも年をとり平均年齢50代後半となりました。この50年間、メリノール会は教区と共同で宣教会活動に従事できたことを幸いに思います。また将来も教区とともに宣教会活動に従事することを期待します。



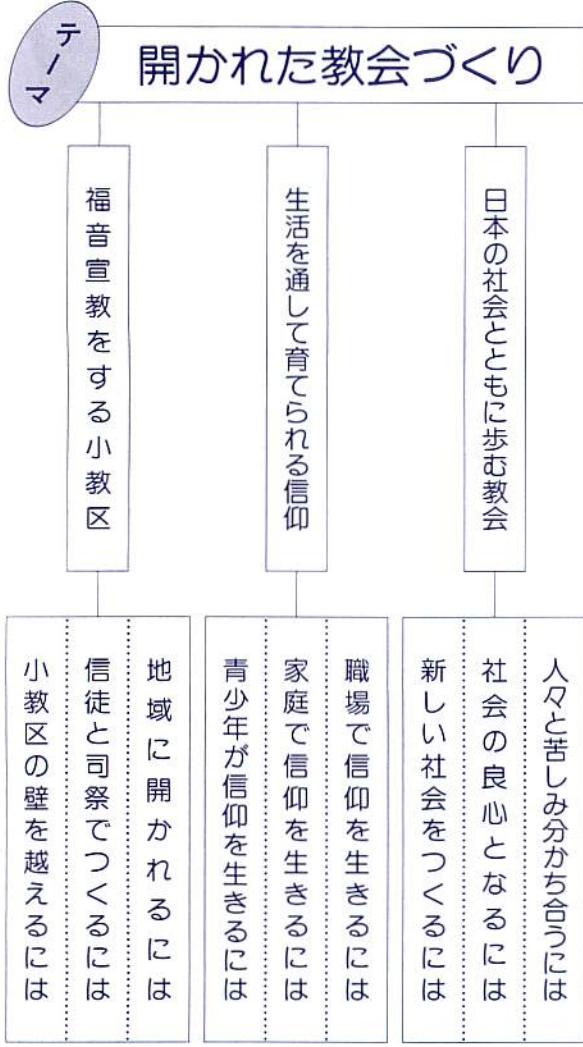
古屋司教



田中司教

# 第1回福音宣教推進全国会議

## テーマと課題決まる



私ども司教団は、12月9日から開催された本年度の臨時司教総会において、課題案をもとに、祈りのうちに討議を重ねました。

そこで、司教団としては、福音宣教を考えるに当たって、生活から信仰を見直していく方向、日本の社会の現実から福音宣教の在り方を考えていく方向を選びました。こうして、私たちは第一回全国会議の課題を「開かれた教会づくり」としました。

課題の中に掲げた三つの柱はどれも私たちが、もう一度、具体的に生活の中に信仰を育てながら福音宣教に向かうことを目指しています。これからあと一年足らずに迫った全国会議のために、この課題をもとに、研究、討議、実践を進めてくださることをお願いいたします。

86年12月12日 日本カトリック司教団声明文抜粋

### 第1回福音宣教推進全国会議 京都代表者名

- |  |   |
|--|---|
| <p>ラッキー神父(桃山教会)<br/>ルーニー神父(大和郡山教会)<br/>松本三朗神父(教理センター)<br/>花井神父(桂教会)<br/>口ペス神父(園部教会)<br/>Sr鈴木幸子(カテキスタ)<br/>Sr田北陽(ノートルダム修道会)</p> | <p>Sr中井聖子(聖母訪問会)<br/>中川浩永(西陣教会)<br/>二条紀彦(岩滝教会)<br/>岩崎章太郎(唐崎教会)<br/>中川久代(大和八木教会)<br/>下平美砂(津教会)</p> |
|--|---|

- 12月
- 1日 司教評定例会。大阪入国管理事務局へ(方師達と共に)
  - 2日 ミロハナ師一行と面談
  - 3日 南信協婦人部代表
  - 4日 MM女子学院理事会(四日市)
  - 5日 平城NT合同会議Goサイン
  - 6日 宗責任役員会。韓国C代表
  - 7日 天台座主山田猊下来訪
  - 7日(日)河原町ミサ。SSND岩倉修道院 祝別ミサ
  - 9-12日 全国司教協議会総会(東京)
  - 14日(日)奈良聖信ミサ
  - 15日 京南司月例会。幼きイエズス会管区長ら来訪。養成担当者会。聖母の家学園と電連
  - 16日 ND女子大25周年ミサ(京都会場)。I学長らと面談
  - 17日 教理C理事会
  - 18日 天台座主と面談・白柳大司教と共に(於比叡山)
  - 21-24日 訪問客多し。修道会、施設、役所、諸宗教。ローマ電連。平城NT建築契約。Xマス市民ミサ。
  - 25日 Xマス深夜社厳ミサ。特に比人と共にのXマスミサ。
  - 26日 平城NT 野外礼拝Cと起工式
  - 28日(日)善きサマリア終生誓願式(Sr森・於奈良教会)
  - 29日 京南司忘年会。養成担当者会
  - 30日 司教評定常任委
  - 31日 大晦日。古屋司教来訪





一九八七年四旬節司教教書

扉を開いて

— 福音宣教に向って

生活の見直しからくる共同体作り —

京都司教 ライムンド 田中健一

### この重要な時に

今年には日本の教会にとっても、京都教区にとっても重要な年となりました。それは申すまでもなく、第1回福音宣教全国会議(ナイス、又は全国会議と呼ぶ)が今年11月20日から23日まで京都で行われること、更に今年が京都教区創立50周年に当たっているからであります。

この二つの大きな出来事の前に私達は着々と準備を続けてまいりました。その皆様の御努力に対し、この教区の司牧者、奉仕者として召された私は心から感謝の意を表わすと共に、今後とも一層の御尽力をお願い致しますのであります。申すまでもなく、大切なのは行事や会議そのものよりむしろ、それを作りあげていく過程とその努力、協力であります。

### 第1回全国会議の課題と私たち

さて、皆様すでに御存知の通り、司教団は全国から集められた種々の意見をまとめ、今回の全国会議の課題を「開かれた教会づくり」と決め、そのもとに三つの重要課題(1)日本の社会と共に歩む教会、(2)生活を通して育てられる信仰、(3)福音宣教する小教区、にまとめ更にそれぞれ三つ

づつの細項目を設け計9つの課題を選び出しました。

御覧になつてすぐおわかりいただけると思いますが、これは'81年11月23日に発表した京都教区ビジョンと殆んど同じ内容のものであります。

このことは私達のビジョンの取組みがこの動きの先取りをするものであり、おごるわけではありませんが、おおいにほこりとしてよいと思うのです。しかしまたそれだけに私達が果す役割も大きく、期待されることも多いかと思えます。

### 福音宣教共同体作りへの招き

昨年の教書「キリストと一緒に旅する神の民、福音宣教共同体として」の中で私は福音宣教共同体についてのあらましを述べさせていただきました。更に'83年の教書でも「本物の信仰者への道を求めて—信仰共同体を生かす真の対話、特に小さい人々に結ばれて」と題して信仰共同体について語らせていただきました。又私の初めての教書には「教区共同体建設のための三つの柱、みことは、ミサ聖祭、相互愛」を強調致しました。又その翌年には「福音宣教について」、更に続いて「信仰の根本的見直し」について語つたものと記憶しております。

この様に私の関心がいつも福音宣教共同体作りであったことは御了承いただけることと思います。さて今年も再びこの「共同体」について今までの考えをまとめる意味において、又今年のナイスの課題、特に「福音宣教する小教区」と言う課題を取り扱うのにも、私達が今、属している小教区共同体の在り方を反省することが大切だと思い、ここに再び取り上げてみることにいたします。

### 福音宣教共同体とは

まずキリストの信仰共同体は、単なる仲良しグループでもない、又家族でもないと言うことについて皆様はどう反応なさいましたでしょうか。また教会は組織、制度、建物がある前に「交わり」である(注マタイ18・20)ことについての発言をどうお考えになりますでしょうか。

更にラザロと金持ちのたとえ話(ルカ16)は、かわいそうな異教徒(!!)をおなきで中に入れてあげることに取り残されているのではないかと、いった反省があります。どうしたら教会に人々を連れて来られるか、どうしたら魅力あるおもしろく楽しい教会に出来るかという苦心する発想の中に、その様な内向きの姿勢がまだ潜んでいる様にも見えます。祈り、みことば、相互愛も、教会という建物の中で、内々の事として行われているのかも知れません。そういうところが福音宣教共同体と言えるのだらうかと言う問いかけであり、もつと痛烈な反省は、そういうところにキリスト様が居心地よくいて下さるかなと言う反省です。

共同体と言う時、私達が求める事は一致でなくて、画一性ではないかなと反省する事があります。みんなが同じ事を同じ様に一緒にすると言うのが共同体であると考えると大きな間違いです。教会はいろんな考え、生き方、感じ方の人、生活環境も教養も、性格も、職業も全く異なる人が、ただ信仰の一致という点だけで自由集まってきている共同体である事を見落してはなりません(エフエソ4・1~10)。また、利益を目的と

して生まれ、そのために厳しい上下関係と組織に生きる社会の様なものでもありません。教会はいわば救いと言う目的だけで一つになっており、キリストは決して出来ない集いのはずですし、上に立つ程仕える事をモットーとする集いでもあります。ところが実際の教会の姿は、人をキリストにする事が多いかも知れませんが、あの人は聖なるキリストにふさわしくないと言つて。

共同体として画一性を求めているのではないかと言うのは、例えば自分達の信仰表現、自分達の考え方、生き方に合わない人は散らす(注マタイ・12・30)のだと言う考えのもとに何かの教会行事に協力しない人に対する不寛容な態度を取る事が時に現われてきます。自分が熱心に何かをしようとする程その誘惑が強くなります。そこで何が大切かと言えば、道こそ違えみな主イエズスキリストに向つているのだと言う事を確信した上で「相手を受け入れる」「相手を理解する」「対話する」と言う事を大切にする事です。小教区内のいろいろなごたごたを見ていますと、この対話の心が、寛容の心が、どうもにがてな所から出て来ている様にも見受けられるのです。

理想にもえて共同体に入つて来た人がまずつまづく事があります。それはいろいろな欠点、みにくさ、罪がみなぎっている事はまだ許せても愛を語りながら、嫉みや憎しみ、悪口、冷淡、無関心、わがままや利己主義が共同体を汚している時です。意見の相違があつても、理解やゆるしや受け入れがあるべきです。ところが私達の集いはどうなのでしょう。互いに足を引っ張り合う様な共同体なら人間でなくてもキリストの方が



先に逃げ出してしまわれます。

### キリストが望まれる共同体

キリストのたてられる信仰共同体がどういふものであるか。それを、ああでもない、こうでもないと話していたところできりはありません。それよりもキリスト御自身、神御自身がどう思っているか、どう望んでおられるのかを聞かなければなりません。そうしなければおのずと聖書を聞く事になります。

福音書の第一書マタイをあければ、はじめから終りまで神の国の福音と言う主題をもとにキリストの望まれる福音宣教共同体についての教えが語られています。

それはともあれ、人がこの事についてすぐ思いつくかべるのはコリント前書12章の神秘体の教えであります。今、皆様のお手もとに聖書を持って来られて聖書を開いて静かに12章から14章までを読みながら、そこで聖パウロを通じて神が語られている神の国の共同体と、今自分の属している共同体の在り方を照らし合わせ、反省してみたいでございます。

そこではまず、種々の働きと役割があつて、その役割を果す事によつて全体をたてるという多様性の一致を述べています。画一性など一言も述べておりません。

次に様々な聖霊の賜物、それをカリスマとよんでいます。それらは「全体の利益のため」(12・7)であると言ひ、又予言の賜物と異語の賜物を語りながら「教会を造り上げる」



(14・5) 事の大切さを述べています。共同体の中で働き、共同体を造り上げられるのは神御自身(12・6)なのですが、私達は与えられた様々な賜物によって共同体に奉仕するのです。ところでその原理が愛である事は言うまでもありません。(注13章)

さて神秘体の教えの中で、多様性の一致、それぞれの肢体の役割と全体への協力を語ったあとでとても重要な言葉が21節から24節に語られます。私達の共同体の中で、お前はいらぬと思う人々がいませんか(21) 弱い部分の人が大切にされていますか(22)。かっこわるい人々が大切にされていますか(23、24)。つまり弱い立場の人が中心になり大切にされる共同体が本当の共同体だと言うのです。また教会の中で世間の中にある様な分け隔てがまかり通っていませんか(25)。また一人一人の苦しみや喜びの共感、分かち合いが行われていますか、と言うのです。

さあ、私たちの属している共同体はどうでしょう。もしそれらに欠けているのなら、キリストの体＝共同体であるとは言えないでしょう。ところがコリント前書を通して私たちがする私たちの集いの見直しです。ところでこの共同体は、出かけて行く共同体であります。よきサマリヤ人の様に最後の審判のたとえ話が教える様に外かけて行く共同体であります。

『昨年(1986)の教書の中で金持ちとラザロ(ルカ16)を引用しまして、キリストの共同体は金持ちの家の中でなく扉の外、ラザロの周りにあるのではないかと言うことを申し上げた様に記憶しております。まさにその通りであります。また先ほど、金持ちの家の中に貧しい人をおなさけで連れて来てあげると言う発想の仕方がはたして正しいのかという様なことを申し上げましたが、私たちの今までの小教区共同体の在り方を見てみますとどうしても金持ちの家の中であり、そこへ連れてくると言う発想が強かった様に思えます。しかし、福音は決してそうは言われない、むしろ扉の外、ラザロ(神は助けるの意)のまわりにでき上るはずだと言うの



であります。ところでみなさんは50周年の祈りを熱心に唱えて下さっておりませんが、これもこの金持ちとラザロのたとえを黙想しながら作られたものであります。

以上、福音宣教共同体について、かなり原理的なことを申し上げてまいりました。しかし以上の問いかけに各共同体で応えようとして下さる時、おのずと具体的な行動が表われてくると確信しております。もしみ

なさんがその様な精神をもって自分たちの共同体の見直しをはじめて下さるなら、福音宣教共同体作りへの改革と改心が始まっているでしょう。そしてそれらは自分たちの福音の見直しにもなるのであります。この見直しは年間行事を決め、それをこなす以上に大切なことであり、この見直しから種々の共同体作りの活動も始つてくると思います。

### 福音宣教共同体への具体的取り組み

ここで福音宣教共同体作りへの具体的な取り組みへの示唆となる二、三のことを指摘しておきたいと思えます。

#### (1) 適正配置について（福音宣教共同体作り）

その一つは「適正配置」の問題です。この問題については昨年の教書の中でも、これに取り組んで下さる様にお願いしました。また、いろいろな機会に語られてきましたので今はそれらを前提として語らせていただきます。

この問題の根本には次の問いがあります。私たちの小教区が教区、日本の教会、世界の教会としての広い視野に立って見た時、はたして福音

宣教共同体になっていきますか、ということなのです。

この問題を提起しますと、すぐ小教区が失くなるのかとか、統合されるのかとか、神父が居なくなるのかなどの受けとめ方になり、司祭の側からも信徒の側からも、それは無理だ、困る、無駄だ、混乱をもたらす自分たちを捨てる気かと言った反対の声が聞こえてきます。しかし本当はこの問題をもっと深い所にあるはずで、神の国がそこに生きているかどうかの問いかけになるはずで、とすれば、これは「神の国の宣教と実現」への至上命令に関する問題になってくるのです。したがって、この問題が司牧評・司祭評・信徒協・修女連など諸活動各方面でなお一層真剣に検討して下さいの様お願いしたいのであります。

#### (2) 社会問題と共に（自分の生活の見直し）

もう一つは社会と共に歩む教会、社会に開かれた教会として、社会に関わる問題も一つ一つ丁寧に取り組みを続けていたいただきたいのであります。社会の問題に関わることは、公会議がはっきり教会の最も重大な使命であると言言し、例えば現代世界憲章の様にその関わり方についての根本的な指針を与えているにもかかわらず、教会の中では今でもこの問題は御法度という風潮がぬけきれません。ですから、もし私たちが社会の苦しみや醜くさや悲鳴や悩みや……。かかえている問題に少しでも答えようとしないうる具体的な信仰生活に何の意味をもたらすというのでしょうか。またそういう問題に少しも答えていない共同体というのは一体どういう価値を持つのでしょうか。

すでにいろいろな取り組みがあります。同和問題、在日韓国人・朝鮮人問題、指紋押捺（今、小山教会のアルフォンソ師が多くの支援を得て戦つておられる）、障害者の問題、公害問題、靖国問題、老人問題、労働者の問題、税金問題、家庭問題、平和の問題……。ありとあらゆる問題があるわけです。そういうことを全部とはいわずできるものから一つ一つ丁寧に扱っていけばよいのです。何々問題と書きましますとあまりに抽象

的で、またその問題の大きさにたじたと取り組みなくなることは事実です。ですから、そんなに大げさに考えず、自分が今いるまわりで人々がどれだけ大切にされているか、いないかを見ることです。大切にされていない部分、大切にされていない人が見つかったら大切にする方法を自分でまず考えてみる。それを友達に相談し、話し合い、協力し合い解決へ努力するというところから始まっていくのです。とにかく関心を持つ事。その関心のできるだけ多くの人をまき込むこと。できる所から始めること。またそのような取り組みをしている人々と協力していくことなのです。要するにそれは自分の置かれている生活の見直しからはじまります。生活の見直しは、自分の見直し、人間の見直しです。人間の見直しは神の見直し、信仰の見直しです。それはまさにキリストが私たちキリスト者みなに呼びかけておられる根本的な呼びかけ、「改心せよ。福音を信じよ。神の国を実現せよ(マタイ4・17)」に答えることです。

私たちはこの呼びかけを四旬節や待降節にミサ中に聞かれますから「罪を告白し、きれいな人になりましょう」ぐらいにしか考えない場合が多いのですが、実はそれだけではすまえてはならないもつと深い改心を求められています。

罪を悔い改めるのは簡単ですが、生活を改める改心までにはなかなか至りにくいのです。改心とは全生活にゆきわたるものでなければなりません。キリスト者に要求されているのは、罪の悔い改めを越えた生活の人間の改めなのです。(注、例えばエフェソ4・17と5・21)

福音宣教共同体作りは自分の生活、生命の見直し、人間の見直し、何を誰を大切にするかの見直しから始まります。その見直しは、イエズス様の心ざし、まなざし、思いやり、ふるまいに倣うことから始まります。

この見直しを私たちは個人としてだけでなく、教会として社会の中の教会として始めねばなりません。

## 終わりに

共同体とはまず交わりである。分かち合いである。キリスト教的共同体とは、特に「小さな人々」を中心に、その人々を大切にする交わりであること。そこにキリストが居られ、そこにキリストは宣べ伝えられ、そこにキリストの福音が生きているのです。共同体にとって必要な制度や組織や建物は、その様な交わりから生まれてきます。その交わりにより生かされてきます。制度や組織や建物が先にあるのではなく、人が先にあり、交わりがあるのです。

富んでいる人、義人が先にあるのではなく、貧しい人、救いを必要としている人が先にあることを忘れたくはありません。

最後に50周年の祈りを心に描きながらこの手紙を終えたいと思います。

「主よ私たちの教会の戸口を開かせて下さい。  
世界を見つめるために」

主よ私たちの心の扉を開かせて下さい。

主よ私たちの足を社会に向わせて下さい。

特に弱い立場に置かれている人々の中に

あなたを見出すことができますように。

主よすばらしい未来をお与え下さい。

私たちの中に神の国が実現しますように

願わくはみなさんの中にキリストが共にいて

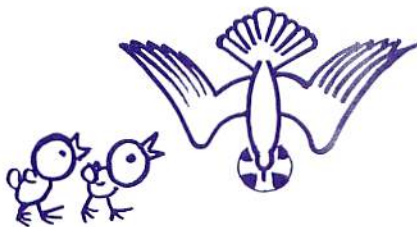
下さいますように。

願わくはみなさんがキリストのおられる所に

いつもおられますように。

願わくは主イエズス・キリストの光、神の愛、

聖霊の交わりがいつもみなさんと共にありますように。」





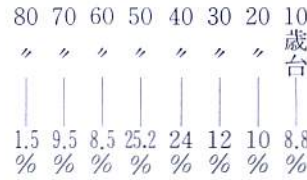
京都教区創立50周年記念

アンケート調査の結果報告

50周年記念行事委員会

このアンケートは教区創立50周年記念の意識化の一環として実施したものです。調査結果から今後の教区、小教区として参考にすべきものが得られるのではないでしょうが。

記入自体に不自由な方もあったと思われるが、一応、信仰、共同体、宣教、刷新などについて関心を持っている層を示していると思われる。やはり40〜50歳台が中心で問題は青年層である。



① 10項目の質問に対する答え

① 1987年は教区創立50周年に

当ることを

知っている 71%

大体の人は知っているようである。知らなかった方もアンケート調査で知ったと思う。

② 50周年記念の理念は「教区お

ち50年の見直し||現代社会に

おける対話と刷新に向けて」で

あることを

知っている 49%

50周年を知っていても、その理念となると、ちょっと難しいであろうか

③ 司教様の50周年に関するメッセ

ージ「近づく教区創立50周年に

向けて」を

読んだ 55%

教区民に行きわたる部数が配布されているはずであるが、全く見たこともないという人もあるのはなぜか。

④ 「京都教区創立50周年に向けて

の祈り」を

教会でしている 40%

個人でしている 15%

先づ祈りがあってこそ、その理念を理解し、実行できる恵みをいただけるのではなかろうか。

⑤ 「京都教区ビジョン」について

知っている 52%

⑥ 「日本の教会の基本方針と優先

課題」について

知っている 38%

②も④も⑥も、具体的な実践によってこそ意識があり、意識も深まるのでは。

⑦ カトリック定期刊行物を読ん

で

カトリック新聞 27%

教区時報 58%

その他 30%

読まない 19%

せめてカトリック新聞は一家庭に一部

を。今後の各教会の課題として取り組んで。

⑧ 信仰のよろこびを

感じている 88%

当然といえばそれまで。そのよろこびを分かち合うには、どうしたらよいか問題。

⑨ 教会で本音で話し合える友は、

多い 22%

少ない 60%

いない 14%

教会の雰囲気を反映しているのか、「いい」が問題。

⑩ カトリック信者であることを

すすんで言う 27%

時と場合によって 63%

なるべく言わない 6%

言わない 4%

なぜ「なるべく言わない」か「言わない」かを考えよう。

以上の数字は各教会ともほぼ同じ傾向になっていた。おおむね実体を示しているものと思われる。

(文責 坂口節夫)

なおアンケート用紙二面の記述

式回答については、次号でお知らせします。

● 回収率 32%

配付部数4900枚に対し1517枚を回収した。ある教会は不足分をコピーして補ったし、ある教会は余ったところもあるようだ。

● 男女の割合 男32% 女68%

信者の男女比を示すものと思われるが、記入のないものもある。

● 年代層

年齢の記入のないもの、高齢で



どんなことにも

目と心を向けて

日星女子高校  
今安 洋子

語って下さい



「ナザレ園」の創設者はプロテスタントの牧師さんで

すが、韓国人でしかも大戦中に父上を日本人によって殺されたそうです。つまり日本人は親の仇なのです。しかしその仇の同胞である日本人妻を助けて下さっているのです。理屈で分かっている親の仇の仲間の面倒を見るのができるでしょうか。苦しい経営なのにそれを続けて下さっているのです。それに比べて、日本の在日韓国人・朝鮮人に対する理由のない差別や、指紋押捺、就職や住宅問題などの多くの制約、政府の対応が私には悲しみを越えて苦しくさえ思われるのです。

私達の学校では、来年から韓国の学習旅行が決定しています。ウォーカーソンの募金も旅行中に手渡すことになっています。私達の心が外国の人達にも広く受け入れられることを願い、またこのウォーカーソンだけで終りでなく他の多くの問題にも関心を向け、将来は、このような貧しい人達と共に歩んで行きたいと思えます。

ナイスへちょっと注目を  
ナイスへ、もっと注目を

ナイスって何さ？そんな事誰でも知ってら、ナイスボール・ナイスキャッチ。いい球とか、上手に受けた、とかそう言う意味さ。

パイプって知ってるか？うちの父さん吸ってら、煙草のパイプの事さ。

ライトって知ってるか？そりゃスプライト、飲み物の事と違うか。

K・Yって知ってるか？K・Y？あ、あのK・YチェーソンのK・Y？。

どうも暴投気味のキャッチボールでごめんなさい。あんまりよく把んで下さらない様でくやしい。

余り煙にまく様な事言わんで下さい。本当は何が言いたいのかはつきりさせて下さい。

K・Yチェーソンの言ったところはまことによろしい。日本に16教区ありますが、その鎖(チェーソ)をしっかりと結ぼうと言うのがこの目的ですからその点はよく理解してもらっている様です。

K・Yと言うのは日本カトリック

ちょっとあなたも

ちょっとわたしも(1)

ク教会の「基本方針と優先課題」と言う事であり、これによって、教会が一丸となって福音宣教に励もうとナイス(福音宣教推進全国会議)の第一回を今年、京都で行う事になったと言う訳です。それはまさに渴いているものに、一本のスプライトの如くさわやかに人々の心を洗うものと期待するものです。パイプ(をくゆらすのは神父様方にお得意の様で、いや煙にまく事が得意と言う訳でなく)これは司祭のナイスのための研修会、ライトは信徒のナイスのための公聴会の事だったんです。

そこで、教区としての10課題とその選定については教区時報でお報せしましたので、省略しますが、司教団は9項目にわたる課題を選定致しました。その事については本紙2ページを御覧下さい。

さてこれからしばらく号を追ってこの解説といった大それた事をやつてのけようと言う訳です。

ナイスボールが投げられナイスキャッチされたらとどんなに願う事か。あ、救援投手も居ります。それに信頼して。パイプの煙にまかれぬ様にライトに渴きを求めて。

# お知らせ

## 教区スケジュール

1月

- 5日 司祭評定例会議
- 6日 司祭修道士懇親会
- 11日(日)西陣教会80周年(聖信式)
- 15日(祭)京都働く人の家10周年
- 16日 SVP京都中央理事會
- 18日(日)教会一致地域集會
- 19日 京都南部司祭集會
- 22日 教会一致京都全体集會 (河原町)

2月

- 8日(日)日本26聖人記念ミサ
- 14~15日 宣教司牧評議會
- 16日 京都南部司祭集會
- 20日 SVP京都中央理事會
- 20~22日 奈良レトルノ
- 22日(日)修女連總會

## Y一日静修のご案内

日時 2月13日(金) AM9時半~  
 場所 ウィチタ聖ヨゼフ本部修道院  
 ☎075(462)0754  
 費用 500(昼食各自持参)

## Y二十六聖人巡礼のご案内

日時 2月11日 AM10時~3時半  
 コース  
 大阪阿倍野教会~堺市ザビエル公園(昼食)~大阪ふるさとの家(ミサ)

備考 弁当持参  
 連絡先 伏見教会 ☎07566410610  
 主催 関西フランチスコ会

## Y講演会のご案内

### 現代社会の豊かさの蔭で

有機溶剤の危険と  
 そとで働く労働者の現状

日時 2月8日(日) PM2時~4時  
 場所 カトリック会館6階ホール  
 講師 Sr・ベビタ(守護の天使の)  
 会費 300円  
 (様みその会・京都働く人の家共催)

## 皆さんご協力下さい

指紋捺捺制度  
 全面改正を求める  
 国会請願署名を  
 集めます

全国外登法問題に取り組み  
 キリスト者連合会主催

## Y個人指導黙想のご案内

日時 3月20日~29日(2日でも可)  
 場所 聖心会 黙想の家  
 〒410静岡岡裾野市桃園198  
 ☎05599(2)2120

指導者 ウォード師(御受難会)  
 松本秀友師 Sr交野聖心会  
 Srジュリアス・マリイ(ウイチタ)  
 申込先 〒45名古屋市港区西蟹田183  
 Sr交野まで ☎0523024385  
 費用 45,000円(8日間)  
 申込時に5000円を納入  
 のこと



指紋捺捺拒否は、拒否した人だけの問題でもなく、外国人だけの問題でもなく、私達日本人の問題なのだということに、早く気がついてほしい。家の中で外のさわぎに窓を閉めてしまうのではなく、時には外に出て、いったい何が起っているのか確かめる必要もある(き)

## 5月から10月受講生、大募集!!

# 聖書が好きになる講座

— あなたも宣教者になろう —

集まれ!! 聖書を読みたい人

生き生きと信仰を生きたい人

やる気熱意のある人、若者も大歓迎。



「参加できてよかった!!み言葉が味わえるようになった」「友だちができた」等々...大好評です。毎週1回(林曜日・秋コリス)6ヶ月(全18回)。聖書を学びわち合いながら、楽しく研修します。講師は京都南部の神父様方です。さあ、この機会逃さず、聖書と親しくなりましょう。▼場所河原町カトリック会館▼費用5,000円(42歳以下)▼定員各18名▼主催聖書使徒職委員会▼申し込みなど詳しくは各教会の募集案内をご覧下さい▼お問い合わせ 教会主任司祭、又は 教理センター Sr 福島まで ☎752/0057